

⑥

鳴く虫文化～虫の音を楽しむ～

日本では古来より鳴く虫の奏でる音が人々に親しまれてきました。『万葉集』に虫の音を詠んだ歌が収録されており、鳴く虫と人のかかわりは少なくとも奈良時代までさかのぼることができます。

平安時代には、マツムシやスズムシなど声のよい虫を選び採り、宮中へ献上した記録が残っています。また、紫式部の『源氏物語』にも虫の音を楽しんだ様子が描写されています。

江戸時代になると、庶民の間でも、山野に出かけて虫の音を鑑賞する「虫聴き（むしきき）」や、鳴く虫を飼うことが盛んに行なわれました。

鳴く虫（コオロギ類・キリギリス類）は、2枚の前翅（まえばね）をこすり合わせて音を出し、種類によって鳴き声に違いがあります。多くはオスだけが発音し、音を使ってコミュニケーションを行います。

鳴く虫には、春先から鳴く種もいますが種類は少なく、季節が進むにつれ、多くの種が加わり、8月から9月に鳴いている種類が最も多くなります。

虫の発音



体長 22～23mm

⑤

カネタタキ

林縁や生垣などの樹上にすむ。  
♪チン・チン・チン.....



体長 7～11mm

▲音声



カマキリ

林縁や草地にすむ。  
♪リューあるいはルルルル.....



体長 14～18mm

▲音声



④

ハタケノウアオイ

畑や河川敷など明るい草地にすむ。  
♪スイツチヨ・スイツチヨ



体長 30～45mm

▲音声



クワヅムシ

林縁や丈の高い草地にすむ。  
♪ガシヤガシヤガシヤ



体長 50～53mm

▲音声



③

キリギリス

開けた草地にすむ。  
♪キーツ・チヨツ...



体長 25～42mm

▲音声



エノコオロギ

耕作地や土手などさまざまな草地にすむ。  
♪コロコロリー



体長 29～35mm

▲音声



京の虫の音レコーディング

京都市内の公園で、録音・投稿された虫の音を公開しています。  
<https://sites.google.com/view/mushino-ne-rec>

▲ウェブサイト



発行：京都府・きょうと生物多様性センター  
編集協力：公益財団法人日本生態系協会  
(2024年8月発行)

みやこ  
むしね  
京の虫の音ブックレット



春夏秋冬のはっきりとした日本で、先人は、秋の訪れとともに鳴き始める虫たちの音色を風流に楽しむことができました。

私たちの身近な場所に、鳴く虫は暮らしています。夕暮れ時に外へ出て、虫たちの奏でる音に耳を澄ましてみませんか。

ブックレットで紹介している鳴く虫

コオロギ類やキリギリス類といった音を発する昆虫が、古くから「鳴く虫」と呼ばれています。このブックレットでは、文部省唱歌「虫のこえ」に登場する種や覚えやすい鳴き声の種を紹介しています。

♪虫のこえ

あれ松虫が 鳴いている  
ちんちろ ちんちろ ちんちろりん  
あれ鈴虫も 鳴き出した  
りんりんりんりん りいんりん  
秋の夜長を 鳴き通す  
ああおもしろい 虫のこえ  
きりきりきりきり こおろぎや  
がちゃがちゃ がちゃがちゃ くつわ虫  
あとから馬おい おいついて  
ちょんちょんちょんちょん すいつちょん  
秋の夜長を 鳴き通す  
ああおもしろい 虫のこえ

文部省唱歌

※虫を紹介しているページに掲載されている2次元コードを読み込むと、音声を聴くことができます。

①

マツムシ

やや乾燥した丈の高い草地にすむ。  
♪ピツ、ピリリ



体長 19～22mm

▲音声



スズムシ

やや湿っていて、よく茂った草地にすむ。  
♪リーンあるいはリンリン...



体長 16～19mm

▲音声



②